

哺乳類図鑑

<p>ノウサギ</p>	<p>アカネズミ</p>
	
<p>ウサギ目ウサギ科</p>	<p>ネズミ目ネズミ科</p>
<p>低地から高山帯までの森林や草地など様々な環境にみられるが、低山から山地帯に多い。植物食性で、多くの植物の葉、芽、枝、樹皮を採食する。夜行性で巣は作らない。早春から秋まで連続して数回の出産を繰り返す。</p>	<p>低地から高山帯まで広く分布し、森林に生息するが、河川敷の下生えが密生しているところにも多数見られる。水田の畦や畑にも出現する。食べ物は、葉緑素を含まない柔らかい植物の根茎部、実生、種実、昆虫類を食べる。特に、秋から春にかけては植物の柔らかい根茎部や実生を良く利用する。繁殖期は、京都で、春と秋の年2山。</p>
<p>タヌキ</p>	<p>イタチ</p>
	
<p>ネコ目イヌ科</p>	<p>ネコ目イタチ科</p>
<p>郊外の住宅地周辺から山地まで広く生息するが、亜高山帯以上に生息することは少ない、鳥類、ノネズミ類などの小型動物、昆虫、野生果実類などを採食するが、キツネやイタチ類に比べ、甲虫の幼虫、ミミズなど、土壌動物の採食量が多い。排泄物を特定の場所に集中するため糞を行う。春に出産する。</p>	<p>雌は一定の行動圏を持ち、土穴などを巣とする。雄は幾つかの雌の行動圏に重なるような行動圏を持つ。カエル、ネズミ類、鳥類、昆虫類など陸上小動物の他、水に入り、ザリガニなどの甲殻類や魚を捕食することも多い。</p>

参考資料：日本の哺乳類、東海大学出版会

両生類・爬虫類図鑑

ニホンアマガエル	トノサマガエル
	
<p>(両生類) アマガエル科</p> <p>平地や低山地の林・草原・生け垣など、低い木や草の上で生活する。繁殖期は5～7月頃で、水田や水溜まりなど浅い止水に産卵する。</p>	<p>(両生類) アカガエル科</p> <p>平地から低山地にかけて水田や小川に多い。5～6月頃、水田や浅い池に産卵する。トノサマガエルはジャンプ力に優れ、昼間はひとつとびで水に飛び込める草むらにすることが多い。</p>
ニホンカナヘビ	シマヘビ
	
<p>(爬虫類) カナヘビ科</p> <p>平地から低山地の堤・草原・やぶ・庭先などにすみ、木にも登るが、2 mの高さまで。産卵は5～9月の間。</p>	<p>(爬虫類) シマヘビ科</p> <p>平地から低山にすみ、堤・草原・山道・林などで見かける。カエル・トカゲ・小ヘビのほか、小鳥や小動物を餌としている。7～8月頃に産卵。</p>

参考資料：日本の両生類・爬虫類、小学館